

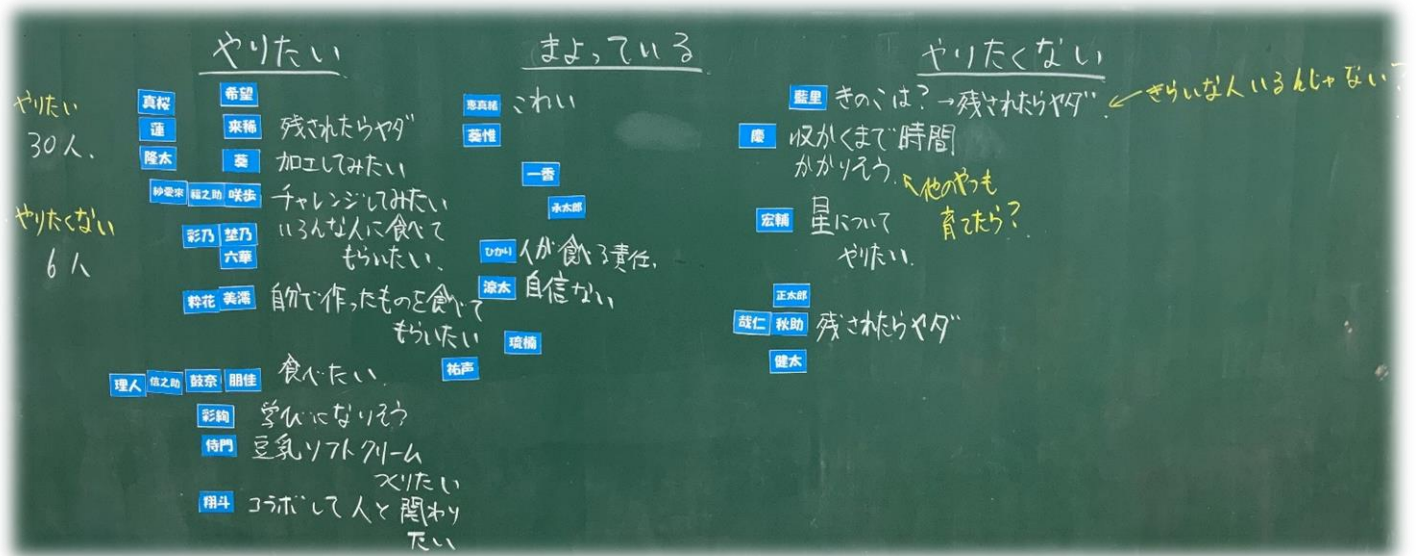
4年1組

## 大豆を育てる 大豆と育つ ～大豆栽培からみえてくる可能性～



### 食べ物は、命につながるもの

4月半ばから後半にかけて、今年度のクラスの中核活動について、子どもたちと考える時間を設けました。その前の週には、私から子どもたちに、「大豆を育てて、そこからいろいろな加工品を作ってみよう」と話をしました。それを子どもたちがどう受け止めて、どう考えたり、どう思ったりしているのかを、一人一人からちゃんと聞きたいと思ったからです。子どもたちは、自分なりに考えて、率直な気持ちを話してくれました。



3年生で豚や鶏との暮らしから学んだ「命」のこと、「大豆」がもつ魅力などから、大豆を育てたいと語る子。もし誰かに食べてもらうとなった時、その責任の重さから「不安」「心配」と語る子。大豆以外に興味をもってそれについて語る子。そんないろいろな意見が入り混じる中で、昨年度の動物飼育をし始める前のことを思い返しました。みんながみんな大賛成ではなかったこと、でもやってみたらすごくかわかったし、大切に思えたし、「命」について学ぶことができたこと、そんなことを振り返る姿がありました。そんな中で、「チャレンジすることが大事だと思う」というNさんやSさんの言葉がみんなの背中を押して、今年度の中核活動が大豆栽培とその加工に決まりました。

#### 「命につながる」

食べ物は、人の大切な一つの物です。食べていけない物を食べてしまったら、大変なことになってしまいます。なので、食べ物は、作る人には責任が重いと思います。大豆を育てることになり、地域の人たちにも加工食品をあげたいと思った4年1組。でも、その中には、「責任があって、私たちのせいでおなかを壊してしまったら怖い」と言っている人がいました。私も、それは、人の命につながるの怖いと思いました。なので、食べ物は…、命につながる。(Nさん)

3年生の時に「食」や「命」について学んできた子どもたちだからこそ、「大豆(=食べ物)」を扱うことの大変さや責任の重さ、一方で楽しさや魅力などを、それぞれの子が考えているように感じました。また、自分が「食べたい」という気持ちもちろんありますが、誰かに「食べてもらいたい」という気持ちも多くあり、これまでの学びや体験から成長してきているんだと感じました。そして、心配や悩みはあっても、「挑戦してみよう!」「4年1組のみんなと協力していきたい!」そんな気持ちを持ってくれていることが、私としては物凄く嬉しかったです。

## どんどん土が やわらかくなっていく

5月も折り返しが過ぎて後半に入りました。今週は、激しい雷雨の日もあったり、この時期では考えられない30度越えの日もあり、天気の変り変わりが大きい1週間でした。

今週、いよいよ畑の準備が始まりました。5月16日(火)、みんなで小島神社横の畑に行きました。自主学习で、畑の準備について調べてきたSさんのノートをヒントに、大豆を植えるための畝づくりに着手することにしました。大豆の畝づくりは、幅が40cmで高さが10cmということが分かっていたので、それをもとに手を付け始めました。しかし第一声、「かったー」と鍬を土に入れた子が言いました。私も確かめてみると、確かに固い。これでは大豆が根をはれないと、耕すところからスタートしました。畑は東西に約4m、南北に31mの縦長の形をしています。本当に神社の真横にあり、午前中は神社の木々のおかげで日陰ですが、午後になると日陰が無くなります。耕す道具が限られているため、3人1組で道具を使い、使っていない時は休憩をとるようにしました。鍬や鋤、スコップなどを使って、畑の土をどんどん掘っていきました。この日の子どもたちの日記です。



「おずかしい」

今日、畑で畝を作りました。一度家でも畑で畝を作ったことがありました。なので、畝の作り方は分かりました。大豆の種をまくのが楽しみです。畝を作るのは難しかったです。でも、大豆が元気に育ってくれるとうれしいです。(Kさん)

今日、大豆を植える予定の畑を耕すのを頑張りました。やり始めた時は、「これ、全部終わる?」って思っていたけど、やっていくに連れ、「どんどん土がやわらかくなっていく!」って嬉しくなりました。そろそろ大豆を植える時期になるけど、本格的にやり始めていて楽しいです。(活動を)大豆についてやるのはとても楽しいで、また残りの事などもどんどんやりました。(Hさん)

土の固さ、粘り気、重さなどを体で感じる子どもたち。これまでの経験を生かして、自分たちでどんどん耕し、畝を作っていき姿がありました。また、畑を貸していただいた方から言われた「畑を草にしないこと」を心に留めて、草取りをする姿もありました。こうして、4-1の子どもたちと畑のくらしがスタートしました。

翌々日の18日(木)、前回の作業の続きをやりに行きました。前回の教訓から、さらに暑さ対策をして畑に向かいました。この日は10時前から作業を開始したので、ちょうど神社の木が畑を日陰にしてくれていました。前回同様、5分交代制で休憩を入れながら耕し、耕した処から畝を作って行きました。土を掘ってミミズが出てくると、「ミミズさん、良い土にしてください」と言いながら再び土に埋めていくFさんやRさんやSさん。自分たちの畑にミミズがいることに喜びを感じていました。前回より作業の時間を長く取ったので、右下写真のように長い畝がどんどんできていきました。Kくんは「自分たちで13mも作れたよ!」と笑顔で私に伝えてくれました。学校に戻り、前回とこの日の活動を振り返りました。



私は、色々変化する食べ物を育てることが初めてで、心臓がドキドキしました。初めて、畑を耕すときは、「美味しい大豆ができるといいな」と楽しみながら、一生懸命頑張りました。スタートの日は、たくさんの想像を思いつき、楽しみに待っていました。シャベルで穴をほっているとミミズが出てきました!だからこの土は、とても栄養があることを知って、美味しい大豆にできる日がもっともっと楽しみで、たまらなくなりました!

最初(5/16)のときは、成長したかも知れないけど、私にとってダメダメだったので、今日は精一杯頑張りました。みんなと「協力」してやると、なんと・・・たくさん耕すことができました。やっぱり友だちがいるたびに、自分もたくさん振り返ることができるし、自分の成長が伝わるから、「いいな」と思いました。もっともっと大豆のために耕して、美味しい大豆をみんなに食べてもらいたいです。人と協力して美味しい大豆を作りたいです。(Mさん)

畑の土を感じながら、耕し、畝を作り始めた子どもたち。だんだん土の感触が変わっていき、畝の形になっていくことの期待をふくらませています。そこには、友の存在も大きいんだなと感じました。私も耕しながら、家の畑だったらすぐに嫌になりますが、子どもたちとかけ声をかけながらやると、固い土とも闘い続けられます。来週には大豆を迎えられるような畑に、子どもたちとつくっていきたいと思います。

## もっと生えてこい！

少しずつ進めてきた畑の準備。一人の力は小さくても、みんなの力が合わさって、神社の畑に何とか畝が出来上がり、種を植えられる状態になっていきました。そしていよいよ、5月25日（木）に初めての種まきをしました。種は、SBC（信越放送）で行っている「大豆100粒運動」に子ども達と相談して応募し、無料でもらうことができました。



種まき当日、やり方をみんなで確認をしました。もらった大豆の袋の説明には、「1箇所につき3～4粒まく」と書かれていました。子ども達とは事前に、畑に直播にするか、ポットに植えてしばらく様子を見るかを考えておいてねと話をしていました。というのも、ご存知の通り、大豆は種を蒔いてからの危険があるからです。子ども達の中には、自主学习でどうしたらより良く育つのかを下調べしている子や、事前に家で育ててみている子もいました。ポットや畝に、自分の種を蒔いていく子ども達。「穴ってどれくらい？」「これでいいのかな？」などつぶやきながら、丁寧に作業していました。すると、、、待っていましたかと言うように、神社の木に「カーカーカー」とカラスが集まってきます。子ども達も、「やっぱり来たー」と声を上げました。「絶対食べさせないからなー」とカラスに警戒する子ども達。しばらくしたら、カラスは隣の田んぼまで迫ってきました。Aさんは、「このーっ」と走って行き、カラスを追いやっていました。学校の畑に蒔いた時も同様で、子ども達が活動し始めると、すごい数の鳥達が木々に集まってきました。子ども達と力を合わせて防鳥ネットを張り、その下にポットに蒔いた人のものも置くことにしました。

「まだかな」

昨日種まきしたばかりなのに、まだ大豆にならないのかなぁと思い、昨日のことは、1ヶ月前みたいに感じがしました。やっぱり大豆は、みんなの力になっていると思いました。食べる時もみんなの力、育てる時もみんなの力になっていました。大豆の力は、みんなが育てるので、これからも大豆に力をもらいながら、大豆にも力をあげたいと思いました。（Sさん）

週明けの5月30日、蒔いた種がどうなったか様子をみんなで見に行きました。自分の蒔いた種の様子を見つめる子ども達。すると、ポットや地面から、少しだけ芽が顔を出そうとしているものがありました。子ども達は、更なる生長を期待して、協力して水くれを始めました。学校の畑には、すぐ近くに蛇口があって簡単に水くれができますが、神社の畑はそうは行きません。隣にある用水路に入り水を汲む人、それを上で受け取ってジョウロに入れる人、ジョウロを使って水をあげる人。それらの役割を、自分たちで分担して、手際良く水くれをしていました。私もその一員になって、「芽を出して！」と願いながら水を運びました。



5月31日、学校の畑を見にいくと…、土から完全に顔を出した大豆がたくさん！！植物栽培の経験が少ない私にとっては本当に嬉しく、思わず教室にポットを持って行き、子ども達に見てもらいました。出た芽を子ども達と一緒に見つめる時間は、何とも言い難い至福の時でした。子ども達の中には、「大豆の芽ってかわいい～」と言っている子もいました。確かに私も、土からくると顔を出している芽が、とても愛おしく感じます。また、ここから、「子ども達」と「大豆」がスタートするんだなとワクワクしています！

最初は「大豆を育てるのは緊張するな」と思っていたけど、水をあげたりしてきたら緊張が消えていきました。5月30日から緊張しなくなってから「大豆を育ててよかったな」と思い始めました。今はたくさん学校の畑に行ったり神社に行ったりしてとても楽しくて良かったです。大豆を育てて色々なものに加工するのが楽しみです。(Kさん)

今日、大豆を見に行くと、ほんのちょっと大豆の芽が出ていました。最初は、友達のが出ているので、心配になりました。でも、よく見ると、私の芽も出ていました。とても嬉しかったです。もっと生えてこい！(Eさん)

今、子ども達の前に生まれ始めた新しい大豆の「命」。この命を、収穫まで大切に持ちつづけて行きたいなと思います。これから水やり当番も話し合っ決めて、わたし大豆・みんなの大豆を、絶やさないように育てて行きたいと思っています。

## ネットってやる意味あるんだ！

大豆とのくらしは、色々な出来事の連続です。先週、小島神社の西側に借りている畑を見に行きました。先々週種まきをして、前日までは芽を出していた大豆の子葉が無くなっているのです。Rさんは最初、「誰かがふざけて切ったんだな」と怒りながら言いました。しかし、頑張っ育てている大豆を誰かが切るわけがないと私は思いました。そう思いながら、芽を出している他の大豆を見ていると、あることに気づきました。その様子を写真に撮り、翌日子どもたちに見せました。(右写真)すると、地面にある白い物に気づき、Sさんが、「これ、鳥のフンだ!」と声を上げました。その後、実際に神社の畑に行ってみました。「こっちにも鳥のフンがある!」とRさん、「ここも食べられているー」とIさんが話していました。そしてEさんは、「やっぱりネットってやる意味あるんだね!」と話していました。実は、学校の畑には、一部分だけ防鳥ネットを張っていました。(そのネットは実験的に張っていました)その部分は、ほとんど鳥害を受けていませんでした。そのことを、水やりなどをしながらおそらく知っていたEさん。神社の畑の鳥害を知り、何のためにネットがあるのか、そのネットによってどんな効果があるのかをEさんは感じているんだなと思いました。子どもたちの多くは、大豆の育て方について本やインターネットで調べています。しかし、自分の目の前で事が起きないと、なかなか実感や危機感が湧いてこないものなのだと、改めて感じました。翌日、早速神社の畑に防鳥ネットを張りました。ネットに鳥ではなく人も引掛かってしまいそうになりながらも、みんなで協力して作業しました。ネットの下には、子どもたち一人ひとりがポットで大切に育ててきた大豆がいます。(左写真)早く神社の土に根付いて、大きく大きく生長して欲しいです。



その他にも、「もやし」に興味を持って作り始める子が出てきたり、防鳥ネット(学校の畑)に鳩が引っかかってしまったり、朝の水やり当番がスタートするも予想以上に大変だったり、盛り沢山の毎日です。でも、こうした出来事やハプニングがあるからこそ子どもたちの「経験」となり、それをつないでいくことで「学び」となっていくのではないかと思います。2度と来ない「今日」という日を、子どもたちと大豆と一緒に、大切に過ごしていきたいと思っています。



### 「大豆くん豆」

今日、教室のベランダにある大豆たちを見ました。本を見て、今の大豆の様子を見ると、3段階目にありました。そこは、ちゃんと茎があり、大豆の豆の部分が膨らんでいて、その上に子葉がありました。かわいくてプチって取りたいぐらいです。もっともっと生長してほしいです。(Fくん)

## 大豆に心を寄せる 大豆と共に育つ



神社の畑の大豆の様子  
(飯縄山と学校をバックに)

7月に入って、毎日のように暑い日が続いています。夏休みまでの登校日数も残りわずかとなりました。子どもたちも暑さに負けず頑張っていますが、1組で育てている大豆も頑張っています。

最近の1組は、朝来たら自分が畑でやる仕事を考えて役割分担を決め、学級の時間から1時間目にかけて神社の畑に行き、大豆のためにできることをしています。5月の最初に植えた大豆の草丈は30cmを越えて、子どもたちも、「もう実ができるんじゃない?」と、実がつくの待ちきれない様子です。夏休みまでに実がつくのが見られることを祈っています!

さて、大豆との時間を重ねていくと、大豆の変化に気づいたり、大豆に語りかけたりするような姿がたくさん見られるようになってきました。

◇今日大豆は前大豆よりも2枚増えていました。他の人たちの大豆の葉の数にはまだまだ及ばないけれど、どんどん育ててみんなの隣に立つような大豆にしたいです。まだまだ生え始めたばかりですが、「これからも頑張って成長して行ってほしいなあ」と思います。(Rさん)

◇みんなと草取りをしました。私達が草取りをしていると、大豆が笑っているようでした。これからも大豆たちのために色々なことをしたいです!!!!(Aさん)

◇今日は、神社の畑の大豆の観察とお世話をしました。神社の畑の大豆は、見ていない間に、とても元気そうにぐんぐん育っていて、とても安心したし、大豆って育つのが早いんだなと思いました。これからも大豆と一緒にたくさん学んで、たくさん成長していきたいです。(Sさん)

◇苗の植えかえをしました。カップをはずしたら、根っこがびっしり生えていました。「もっと早く、畑に植えたら良かったな。」と少し後悔しました。畑に植えたら、大豆が嬉しそうで自分まで嬉しくなりました!もっと、育ててね、大豆さん!(Eさん)

◇今日は、神社に行き、草取りをしました。草取りをしたら、大豆さんが喜んでるように感じました。なので、自分も嬉しくなりました。大豆さんのためのことをすれば、大豆さんがお礼を言っている感じがして、自分も嬉しくなります。なので、このことを通してたくさん役立つことをしたいです。「頑張るぞー!」と気合をこめて美味しい大豆を作っていきたいです。大豆のためにできることがあれば、頑張っていきたいです。(Mさん)



5月末に種を蒔き、1カ月半近く大豆と共にくらしてきた子どもたち。そんな子どもたちの中には、「大豆」が「大豆さん」へと変化していつている子も見られるようになってきました。また、表現こそ違いますが、「大きくなってきてくれて嬉しい」「暑いのに枯れないでいてくれてすごいと思った」と、大豆へ思いを寄せる姿もあります。その子なりに、大豆と向き合ってくれていることが、とても嬉しく感じています。そういった変化は他にも見られるようになってきました。

◇今日は、神社の畑に行きました。今日は、私のチームともう1つのチームが水くみの日です。入ろうと思えば水路を見たら…、なんと水路の半分まで水が来ていました。(中略) Sちゃんと一緒に長靴を洗った時に、色々な話をしました。元2組の子とも仲良くなれてきて嬉しいです。(Nさん)

◇今日変なチャレンジをした。(水路の)水位が上がっていて、みんなと協力して、仲が深まったと思います。これからもみんなと協力して、仲を深めたい!(Rさん)

大豆の活動を通して、友だちとの関わりも他の授業以上に増え、絆を広げたり深めたりする姿。同じ作業をする友だちと、助け合って活動する姿。そういった姿も、日を重ねるごとに増えているんだなと、子どもたちから教えてもらいました。



さらに、こんな出来事もありました。ある日、6時間目に畑に行ってから子どもたちが下校していった下駄箱を見ると、次のような様子でした。「これはみんなと考えないといけない」と思い、写真を子どもたちと共有しました。見た瞬間、「うわあ、汚い!」「上履きも長靴もしまっていないじゃん」と、次々に子どもたちの声が上がりました。赤絨毯の使い方、自分ができること・やらなきゃいけないこと、ここの掃除は誰がやっているのかということ。そういったことを子どもたちと話をしながら、今後どのようにしていけばいいのかを一緒に考えました。わたしたちの「大豆」の活動によって、ルールを破ってしま

ったり、学校のみんに迷惑をかけたりすることがないように、「相手を感じることを大切にしていこう」と話し合いました。翌日、畑から帰ってきた後の玄関は、写真とは比べ物にならないほどきれいでした。何があったんだろうと思って次の日子どもたちの様子を見に行くと、昇降口前の水道で、靴を丁寧に洗う子どもたちの姿がありました。その姿を見て、大豆を育てながら、子どもたち自身も考え、行動して、成長していているんだなと感じました。



これからも、1組の子どもたちと大豆のくらしはまだまだ続きます。大豆と共に、子どもたちも私も、もっともっと成長していけたらいいなと願っております。夏休み明け、大豆にどれくらい実がついているかを子どもたちと見るのが、今から楽しみです。